

防衛省の研究開発の基本的考え方

「平成26年度以降に係る防衛計画の大綱」（平成25年12月17日国家安全保障会議及び閣議決定）及び「中期防衛力整備計画（平成26年度～平成30年度）」（平成25年12月17日国家安全保障会議及び閣議決定）に基づき、以下の点を重視し、研究開発を推進。

- － 自衛隊の運用に係るニーズに合致した研究開発の優先的な実施
- － 新たな脅威に対応し、戦略的に重要な分野において技術的優位性を確保
- － 産学官の力の結集と安全保障分野における活用

防衛省における平成28年度科学技術関係経費

H28年度概算要求： 1,123億円【歳出ベース】（当該年度に支出する金額の合計）

1,384億円【契約ベース（物件費）】（当該年度に結ぶ契約額の合計）

* 防衛装備庁の研究開発経費の他、防衛大学校及び防衛医科大学校の教官研究経費を含む

主要事項(1/2)（金額は契約ベース）

○複数車両等の情報統合による環境認識向上技術の研究（科学技術イノベーション総合戦略2015における重点化対象施策）

H28年度概算要求： 約5億円

【概要】

大規模災害等によるC B R N（*1）環境等の有人作業が危険な場所において、迅速な復旧・復興を可能とする先進的な環境認識技術（*2）を遠隔操縦車両にシステム化する研究を実施。

*1 C B R N：Chemical, Biological, Radiological and Nuclear
（化学、生物、放射性物質及び核）

*2 複数車両のセンサで取得した地形情報等の統合により、経路啓開等の各種作業の迅速化を可能とする技術



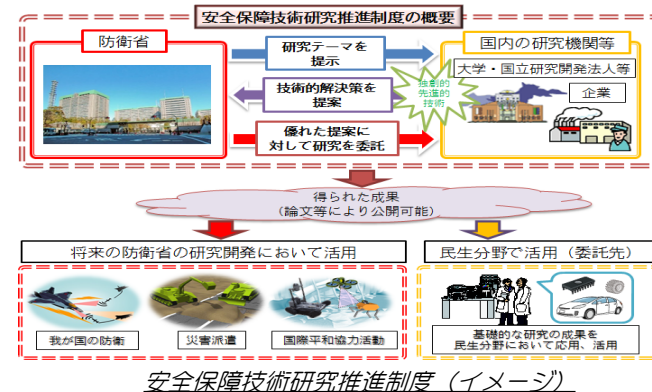
複数車両等の情報統合による環境認識向上技術の研究（イメージ）

○安全保障技術研究推進制度

H28年度概算要求： 約6億円

【概要】

防衛装備品への適用面から着目される大学、国立研究開発法人などの研究機関や企業等における独創的な研究を発掘し、将来有望である芽出し研究を育成するためのファンディング制度（競争的資金）の更なる推進（新たな研究課題の募集を含む。）

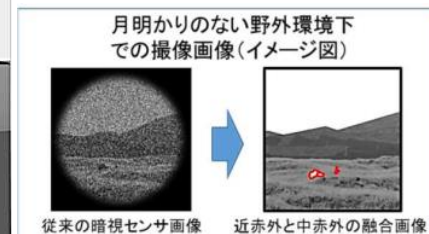
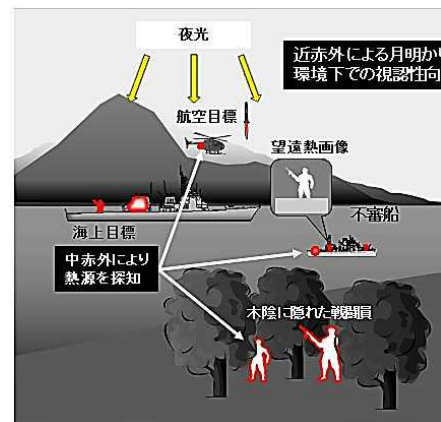


○目標識別能力向上及び夜間任務能力向上に寄与する暗視センサ技術の研究

H28年度概算要求： 約23億円

【概要】

無人機、車両等各種ビークルや多様な装備品等に搭載し、月明かりのない野外環境下でも昼間に近い画像が得られる近赤外暗視センサと遠方の熱源画像が得られる中赤外暗視センサの2つの暗視センサの画像を融合処理することにより、目標識別能力及び夜間任務能力の向上が見込まれる先進的な暗視センサ技術の研究を実施。



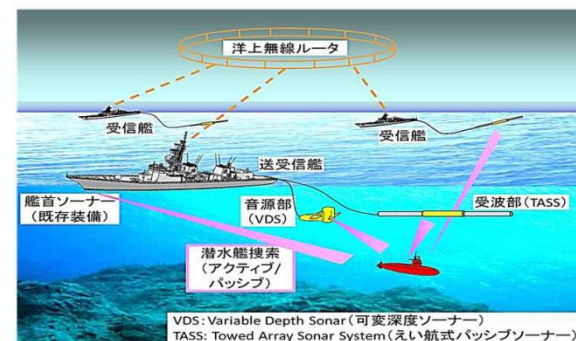
目標識別能力向上及び夜間任務能力向上に寄与する暗視センサ技術の研究（イメージ）

○可変深度ソーナーシステムの開発

H28年度概算要求： 約97億円

【概要】

護衛艦に搭載する新たなソーナーシステムとして、層深下に潜航した潜水艦の探知類別能力を向上させるため、えい航式ソーナーにアクティブソーナーの機能を付加し、複数の護衛艦で相互連携による搜索を可能とする可変深度ソーナーシステムを開発。



可変深度ソーナーシステムの運用イメージ